

【農業生産の振興（生産流通対策）】

～ 稲発酵粗飼料（WCS）の取組み（石筵地区） ～

1 地域の概要

郡山市熱海町石筵地区は、安達太良山西側のすそ野、標高450mにあり、夏は冷涼で、冬は平坦部に比べ降雪が多く寒さは比較的厳しい環境にある。

水田は未整備田のため不整形で、農道は狭く用排水路は土水路で規模拡大の妨げになっている。当地区は郡山有数の酪農地帯を形成しており、生乳は県酪農協とJA全農の2系統に出荷されている。

2 組織の概要

名称：石筵粗飼料機械利用組合

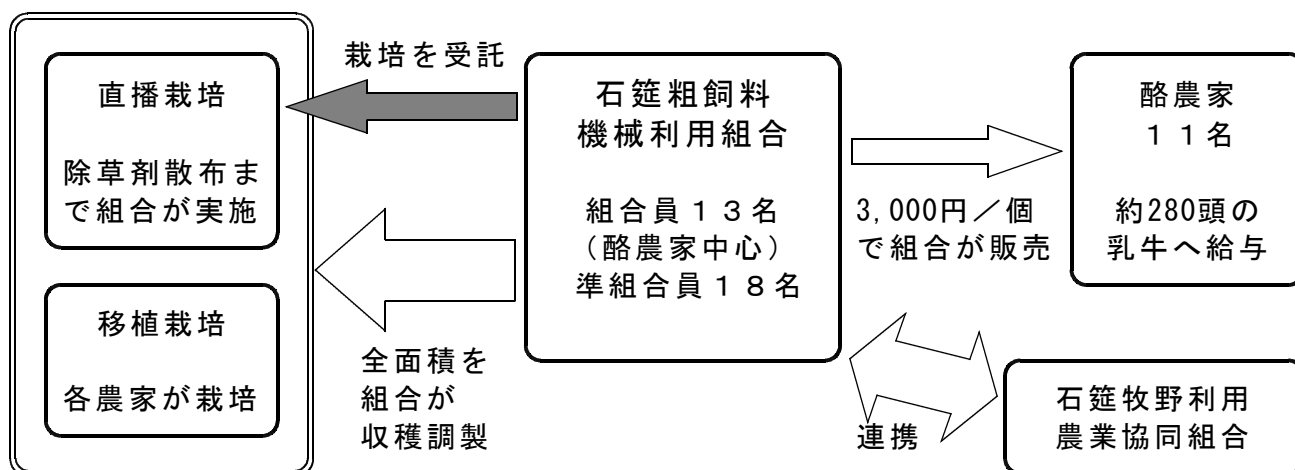
設立年月：平成15年3月

組織構成：組合員数13名（酪農家中心）、準組合員数38名

<稲発酵粗飼料生産に係る取組み体系>

稲の栽培及び収穫調製

稲WCSの給与



3 稲発酵粗飼料生産の取組み経過

石筵地区は標高が高く不整備田で、稲作は平坦地に比べて条件が不利なことから水田経営の在り方が模索されていた。また、酪農経営においても自給飼料をより確保したいという要望が潜在的にあった。

そのような際に農林事務所がWCS用稲栽培の提示を行い、市内の他地区においても取組み事例があったことから栽培に取り組んだ。

初年度は収穫調製作業を受託し、牧草用機械を利用し収穫調製を行った。翌年度は試作的に栽培しうまくいったので、次年度から栽培希望者を募り面積を増やし、石筵粗飼料機械利用組合の設立、WCS用稲専用収穫機の導入に至った。

(1) 各年次毎の経過状況

平成13年：農林事務所がWCS用稲栽培を提示
収穫調製作業を受託

平成14年：WCS用稲の栽培に取り組む（約6ha）

平成15年3月：石筵粗飼料機械利用組合を設立

平成15年8月：WCS用稲専用収穫機（フレール型）を県単事業で導入

平成17年4月：直播栽培のため直播機（点播機）を県単事業で導入

平成20年8月：面積増加対応のため、2台目の専用収穫機を国庫事業で導入

(2) 栽培面積の推移

(h a)

| | H 15 年 | H 16 年 | H 17 年 | H 18 年 | H 19 年 | H 20 年 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 作付面積 | 9.3 | 15.7 | 23.6 | 25.7 | 28.0 | 31.2 |
| うち移植面積 | 7.0 | 10.2 | 13.6 | 14.0 | 15.6 | 20.2 |
| うち直播面積 | 2.3 | 5.2 | 10.0 | 11.7 | 12.4 | 11.0 |

4 取組みの効果及び今後の取組方向

現在、石筵地区の全水田面積 1 4 0 ha の約 4 分の 1 に当たる 3 1 . 2 ha に W C S 用稲が広く栽培されている。高齢化等により耕作が困難になってきた水田については、組合が作業を受託するなどして W C S 用稲を栽培することで、農地の耕作放棄防止にも一役かっている。

生産された稲 W C S は品質も高く嗜好性も良く乳用牛の貴重な粗飼料として利用されている。石筵共同牧野 (4 5 ha) の牧草 (グラスサイレージ) と合わせると約 8 割の粗飼料が自給されており、自給率の高さが際立っている。

今後、石筵粗飼料機械利用組合では、W C S 用稲を 4 0 ha ほどまで生産拡大し、粗飼料の自給率 100% 達成を目標として取り組んでいく計画である。



直播機 (点播機) による種籾 (ふくひびき) の播種作業



専用収穫機 (新旧 2 台) による収穫調製作業



成形 (ロール) された W C S 用稲



ラッピングマシンによる密封作業